

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 講師

氏名 西本裕樹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

責任範囲は、獣医保健看護学科1年次前期；生物学、生物学実習、環境科学科1年次前期；基礎生物学、後期；基礎生物学実習、食品生命学科1年次前期；基礎生物学・同実習であり、座学における講義・小テストと定期試験、実習における実験・レポートの指導及び添削を行った。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
生物学	獣医保健看護学科	必修	1	78
生物学実習	獣医保健看護学科	選択	1	66
基礎生物学・同実習	食品生命科学科	必修	1	51
基礎生物学	環境科学科	必修	1	84
基礎生物学実習	環境科学科	必修	1	76

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生が、分からないことを自ら知ろうとする姿勢や意識を身に付けさせるためには、目標と学習方法を明確にすることが簡便と考えられる。1年生ではまだ、各自の学習方法を確立できていない可能性がある。そこで、学生へのアプローチとして、①教科書・専門書から必要な知識をノートに整理する手本を示す、②問題を繰り返し解くなどの反復学習を習慣付ける、の2つを想定した。

①に関しては、講義で使用するスライドが複数の教科書の要点をまとめたものになっており、スライドを通して、学生が各自で要点をまとめる際の参考となるように意識している。また、②に関しては、小テストを講義中に実施、または練習問題として配布し、一度出題した小テストの問題を再出題する復習テストの実施や、定期試験に小テストから一部出題するなどして、多数の問題を反復する状況を用意した。また、小テストを解くためにはスライドと教科書を確認する必要があり、学生は復習→小テスト→復習を繰り返す必要もある。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

前項①「教科書・専門書から必要な知識をノートに整理する手本を示す」に関しては、(1) 複数の教科書から重要な点を図と箇条書きで作成した簡潔なまとめをスライドとして用意し、(2) スライド中の重要な用語や文章を空欄にして学生に配布した。講義中に空欄を提示し、学生にノートを取らせて重要事項のまとめを完成させ、(3) 学生が復習する時には、スライドの空欄を暗記することで要点が身につくようにした。さらに、他の科目での自学でも、この講義のまとめを参考にして各自のノートを作成することで、知識が定着すると期待される。

前項②「問題を繰り返し解くなどの反復学習を習慣付ける」に関しては、まず、(1) 毎週の講義内容に沿った問題（総数100～140問程度）を小テストとして実施、または練習問題として配布した。これにより、学生はスライドや教科書を復習しなければ解けない問題に取り組むことが求められた。また、(2) 小テストの点数を成績評価に反映し、一度出題した問題をまとめたテストも後日実施し、さらに、小テストや練習問題を定期試験にも一部出題して学生を何度も繰り返し復習する必要がある状態にした。

なお、(3) 定期試験では、小テストの問題を改変したものも出題し、学生が丸暗記ではなく、問題を理解し注意深く読む必要があるようにした。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

担当科目が1年次の基礎科目であり、アクティブ・ラーニングの前段階として、それを行うための基礎知識の習得を重視する必要があると考えているため、講義科目では学生同士のディスカッションや自発的な活動は取り入れていない。

なお、実習に関しては、学生の自発的な作業や観察を行いやすいように、全員分の顕微鏡を用意する、班全員で作業を分担するように指示するといった対応は行った。

(2) ICTの教育活用

有

講義資料をPDFで配布し、講義中はPC・タブレットを用いてPDFファイルへ直接書き込んでノートを取ることを推奨し、PDF中のノートの表示/非表示の切り替えによって復習しやすいように配慮した。また、講義中の小テストもAzaMoodleを活用し、学生が現状の把握や次週の目標設定をしやすいように、小テスト終了と同時に集計結果のグラフを提示した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

前職での経験を元に、穴埋め形式のスライドをPDFで配布し、重要用語やフレーズを覚えやすく、講義中に余裕を持ってノートを取れるように配慮するとともに、学生がPDFの利点を活かし穴埋め問題に応用できるよう配慮してきた。しかし、今年は一部の学生からメモが多すぎて聞くことに集中できない意見があったため、来年度は文字数を調整予定。ただし、聞き流し防止のため、空欄をなくすことは考えていない。

(2) 学生の理解度の把握

B

AzaMoodleの小テスト機能を利用して講義中に小テストを実施し、終了後、直ちにそれまでの小テストの合計点の度数分布表を作成して学生に提示するとともに、毎週、学生の成績を確認した。この時、学生に対して、各成績域における定期試験の合格ラインを明示し、学生自身が各自の理解度や知識量を把握できるように努めた。また、個別に質問に来た学生には、その学生がどの分布域に属するかを開示し、学習のアドバイスも行った。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

学生が自ら行動できるようにするためには、目標と目標達成に必要な行動がそれぞれ明確であることが望ましいと考えられる。そこで、1年次で設定しやすい明確な目標を単位の取得と想定し、単位取得に必要な小テストおよび定期試験の点数の目安を明示し、試験対策として講義で使用したスライドの空欄を覚え、小テスト・練習問題を繰り返し解いて暗記および理解する必要があると、明示した。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

休み時間ごとに講義室内を回り、学生に声をかけ、理解できない箇所がないか、小テストの成績、十分に勉強しているかなどを確認した。また、学生からも話しやすいように、勉強以外の雑談にも応じた。好意的に捉えてくれる学生は多かったように感じたが、一部の学生は教員から話しかけられること自体を嫌がる場合があるようなので、話す頻度については今後の検討課題と捉えている。

(5) 双方向授業への工夫

A

担当科目はいずれも基礎教育科目であり、特に座学では学生のディスカッション等を行う前提となる基礎的な知識を習得することを目的としているため、現時点では双方向授業の積極的な取り入れは考えていない。

なお、獣医保健看護学科の生物学実習に関しては、実習の最後に各班のプレゼンテーションを実施し学生自身による発信を行った。環境科学科の基礎生物学実習への双方向授業の取り入れは、今後検討していきたい。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

獣医学科及び臨床検査学科の講義を担当していないため、取り組みはない。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

今年度は、座学の講義では毎回、小テストの実施または練習問題の配布を行い、学生に何度も繰り返し教科書・スライドを読み、多数の問題を解くように促した。一部の学生には勉強しやすかったようだが、勉強不足の学生も散見された。来年度は、担当する全学科で問題数を拡充するとともに、問題文と選択肢を覚えるほどに繰り返すように指示していく予定である。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

最初の数回分の小テストでは結果を随時公表していなかったが、「小テスト結果は成績に反映されない」または「影響は少ない」と誤解し積極的に取り組まない学生が散見された。しかし、成績分布と合格ラインを随時公開した結果、小テストの平均(10点満点)に1～2点程度の改善がみられた。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

2024/9/20: 教職課程FD研修会「教育職員免許法と本学の教職課程について」

2024/12/2: 2024年度 第3回 研究推進・支援本部主催 啓発セミナー

2024/12/20: 教職員研修会「情報の伝達に影響を与える表情・態度・言葉遣い」

2024/12: 一般社団法人デジタル教育推進機構発足記念シンポジウム講演(動画視聴)

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生がより積極的に基礎知識を身につけるように誘導するための環境整備を目標として、小テストの問題数増加、文章・単語の暗記以外も必要となるような問題のバリエーション（図の作成など）を追加、および愛玩動物看護師国家試験の過去問を参考にした問題の作成を予定している。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

AzaMoodle上で配布した講義資料（PDFファイル）

AzaMoodleの機能で作成・実施した小テスト

FD研修会の参加記録（Googleフォームで入力）、